

美しい 県土づくりNEWS

知恵と工夫

2005 年

Jan 1

岩手県県土整備部手づくり広報誌

美しい県土づくり NEWS 6号

平成 17 年 1 月 4 日発行

編集 県土整備企画室

Page

2

3

6

8

10

12

14

15

16

17

18

CONTENTS

- 今月の人 佐藤河川課総括課長
- 県民参加・NPO 等協働通信
- 特集 岩手県港湾ビジョン・アクションプラン道路現況調査
- 新潟県中越地震災害派遣職員報告
- 美しい地域づくりを目指して
- 県土整備 TOPICS
- 災害復旧事業、各賞受賞
- 知恵と工夫
- インフォメーション
- みんなの声
- データウォッチング
- 土木建築作品

大船渡市の盛川にコウノトリが飛来しました！

昨年の 12 月上旬、大船渡市を流れる盛川の権現堂橋付近に、国のレッドデータブックで絶滅が危惧されている特別天然記念物のコウノトリが飛来しました。権現堂橋の下流域は、16 年 3 月に部分的にヨシを焼却除去した場所で、その上流域にコウノトリが飛来したことに関係者一同驚いております。12 月中旬には盛川を飛び去りましたが、今後とも環境に配慮しながら自然と共存する盛川として育んでいきます。



今月の人

あらた

新 しき年の始めの初春の

け ふ いやしけよこと
今日降る雪の彌重吉事

(万葉集大尾 大伴家持歌)

河川課総括課長

佐藤 文夫



新春のお慶びを申し上げます。

大伴家持が、因幡国守（現在の鳥取市に因幡国庁跡があります）として赴任した翌年の正月に、「新年の元旦の今日、降り積もる雪のように、よいことがたくさん積もって欲しい」と詠んだ歌です。昨年の世相を表した「災」を転じて、今年は「福」多き年となりますようお願いしております。

さて、平成 17 年度予算の政府案が閣議決定されました。県の公共事業の内、ほとんどの補助事業が全国枠の予算に入っているため、個別箇所ごとの予算がわかっていませんが、河川課で取り組んでいる事業について紹介します。

まず、大規模な事業のダム建設事業については、箇所ごとに予算内示がありました。県が進めている鷹生ダム、築川ダム、津付ダムの三つのダム建設事業に、合計約 40 億円の満額内示、また、国で進めている胆沢ダム建設事業もほぼ要求どおり、127 億円の内示がありました。

県では、盛川、築川及び気仙川の洪水対策について、沿川の土地利用状況や経済性等を総合的に判断し、河川改修とダムによる洪水調節を組み合わせた最善の手法で進めています。この結果、鷹生ダムは平成 18 年度の竣工が見込まれ、築川ダムは付替え国道や県道が、また津付ダムは生活再建対策の進捗が図られることとなります。

また、全国枠の予算の中には、砂鉄川等の 18 河川の改修事業、平内海岸や津軽石川等の 8 箇所津波対策を行う海岸事業や三陸高潮対策事業、来内川の洪水調節を行う遠野第二ダム建設事業等が盛り込まれています。

これら河川課で取り組んでいる洪水や津波対策

事業は、厳しい財政状況の中で、部内のサマーレビューや県全体の公共事業の予算について検討した結果を踏まえて作成しており、概ね課の案で進めていけるものと思っています。

一方、政府案には新たに「総合流域防災事業（仮称）」が盛り込まれました。この事業は、都道府県が管理する河川を流域ごとに都道府県や国、市町村などで協議会を組織し、5 年程度の河川改修や砂防事業などを盛り込んだ計画を作成し、これらの事業について一括し補助するものです。補助金を自治体にとって使いやすくする改革の一環で、事業ごとに補助を申請する必要がなく、計画にあるどの事業から始めるかなどは都道府県が判断して決めるというものです。

事業は、堤防の強化や地すべり防止施設の整備などハード事業と浸水想定区域図やハザードマップの調査や作成、河川の水位などをリアルタイムで監視するシステムの整備などソフト事業を組み合わせた内容となっています。

このような補助事業に県単独事業も加え、昨年と同様に今年も引き続いて、県民の皆様の声を幅広くお聴きしながら、ハード面と共にソフト面を含めた洪水・津波対策を進めて参りますが、ハード面の防災施設の整備が道半ばであること、また、整備が終わった箇所でも計画雨量を超える豪雨や計画津波高さを超える津波の襲来等、自然災害が発生する可能性があります。

従って、自然災害からの被害を出来るだけ軽減するためには、行政が進めている「公助」のほかに「自らの身の安全は自ら守る」といった考え方に基づく「自助」と地域連携による防災活動等の「共助」が非常に大きな役割を果たすものと考えています。

大半の社会経済活動が、限られた沖積平野で営まれています。県民の皆様が安全で安心して生活できるよう、目標としている安全度の確保に向けて着実に取り組んでいくと共に、現在の安全度を上回る洪水や津波に対してもできるだけ被害が軽減されるような防災対策にも併せて取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

（河川課のホームページのアドレスです。ご覧ください。）

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0605/>

1 月の主な 行事予定

● 下水道管理体制委員会

- 期日 1 月 13 日(木)
- 時間 10 時～16 時
- 場所 盛岡市北ホテル
- 担当 下水環境課

● 田瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会

- 期日 1 月 17 日(月)
- 時間 15 時 30 分～18 時
- 場所 東和町
- 担当 花巻地方振興局土木部

● 県政に関する県と市町村との意見交換会

- 期日 1 月 17 日(月)
- 時間 13 時～15 時 30 分
- 場所 県庁 12 階講堂
- 担当 県土整備企画室

● 秋田県知事トップセミナー

- 期日 1 月 18 日(火)
- 時間 14 時～15 時 30 分
- 場所 県庁 12 階講堂
- 担当 都市計画課

● 住民参加・NPO 協働地域懇談会(花巻地区)

- 期日 1 月 18 日(火)
- 時間 13 時～15 時 30 分
- 場所 花巻地区合同庁舎
- 担当 花巻地方振興局土木部

● 広域公園利活用会議

- 期日 1 月 20 日(木)
- 時間 13 時～17 時
- 場所 盛岡合同庁舎 8 B 会議室
- 担当 都市計画課

● 汚水適正処理ビジョン検討委員会

- 期日 1 月 28 日(金)
- 時間 15 時～17 時
- 場所 盛岡市マリオス
- 担当 下水環境課

● 県民参加・NPO 協働フォーラム ～知恵と工夫 美しい県土づくりをめざして～

- 期日 2 月 3 日(木)
- 時間 13 時～17 時
- 場所 盛岡市総合福祉センター
- 担当 県土整備企画室

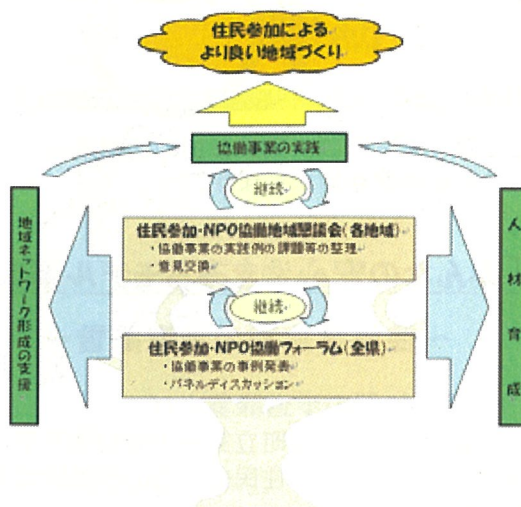
県民参加・NPO 協働通信

県民参加・NPO 協働フォーラムイメージ図

「住民参加・NPO協働地域懇談会」を開催！

～事例発表と意見交換～

昨年の12月から今年の1月にかけて盛岡、花巻、釜石、二戸地区を会場に、「住民参加・NPO 協働地域懇談会」を開催し、県民協働による公共事業の推進に向けての課題や方向性、自分たちで出来ることなどについて意見交換を行っています。また、2月3日には、全県を対象とした「住民参加・NPO協働フォーラム」を開催します。県民参加を一層推進し、必要な人材育成や県民協働の実践を通じて、より良い地域づくりに活かしていきたいと思ひます。



釜石会場の様子(H16.12.21)①



②



③



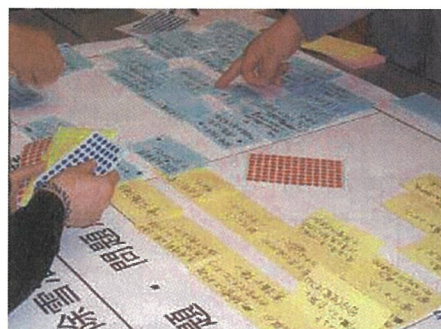
盛岡会場の様子(H16.12.22)①



②



③



釜石会場での主な意見(抜粋)

- ◆ 住民が参加しにくい原因
 - ・ 行政側で描いたシナリオがすでにある気がする
 - ・ 事業の情報が不足している
 - ・ どこでどんな工事が行われているかわからない
- ◆ 県民参加の望ましい姿
 - ・ 計画段階から住民の意見を十分取り入れる
 - ・ 住民からの意見は総合的なものから細かい部分まで何段階かに分けて開催
 - ・ 参加しやすい日程調整
- ◆ 今自分たちで出来ることは何か
 - ・ 課題について住民意識調査とそれに基づく提言
 - ・ 住んでいる地域のほかの団体との情報交換

お知らせ

『県民参加・NPO協働フォーラム』 ～知恵と工夫美しい県土づくりをめざして～

- 日 時 17年2月3日(木)13時10分～17時00分
- 場 所 盛岡市総合福祉センター4F講堂
(盛岡市若園町2-2)
- 参加者 250人(予定)
- 基調講演 NPOサポートセンター理事長山岸秀雄氏
- 住民参加の取り組み事例発表
 - 紫波町日詰地区 くらしのみちゾーンについて
 - 花巻地区 後川地域のグランドワークによる環境再生
 - 宮古地区 未来の山口川を創る取り組みについて(仮題)
 - 二戸地区 雪谷川の住民協働の取り組み(仮題)
- パネルディスカッション

県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO などの協働事例を紹介します。

「みんなの安心ゆきみちモデル事業」

～住民参加型の歩道除雪～

1 住民参加型の歩道除雪とは

岩手県では、金ヶ崎町立第一小学校をモデル地区として今年度初めて、住民参加型の歩道除雪を実施いたします。

住民参加型歩道除雪では、地域住民・岩手県・金ヶ崎町が右上の図のイメージで役割を分担します。

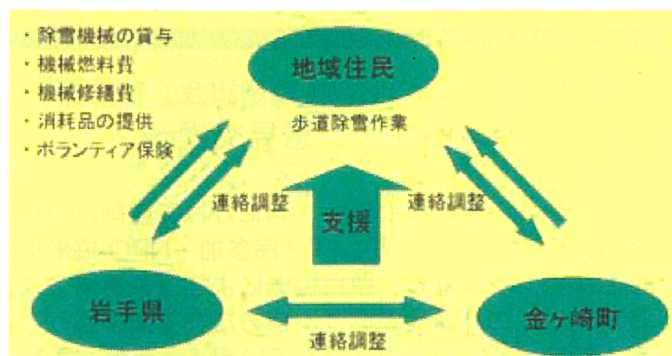
県が保有する機械を地域に貸与するほか、16 年度は県が機械の燃料費や修繕費、保険加入料を負担し、消耗品についても提供します。

現在全国の 40 市町村 56 地区で住民参加型の除雪が行われています。県内では国土交通省岩手河川国道事務所・三陸国道事務所、盛岡市役所で住民参加型の除雪が行われています。

2 現状と課題

県の除雪（歩道除雪）は、県が定めた出動基準に基づき計画的に除雪を実施しています。第一小学校周辺は歩道除雪の出動基準がランク A であり、積雪量が 10cm 以上の時、出動しています。

一方、住民から求められる除雪水準が年々高まってきており、現在の体制（除雪費・人員）において



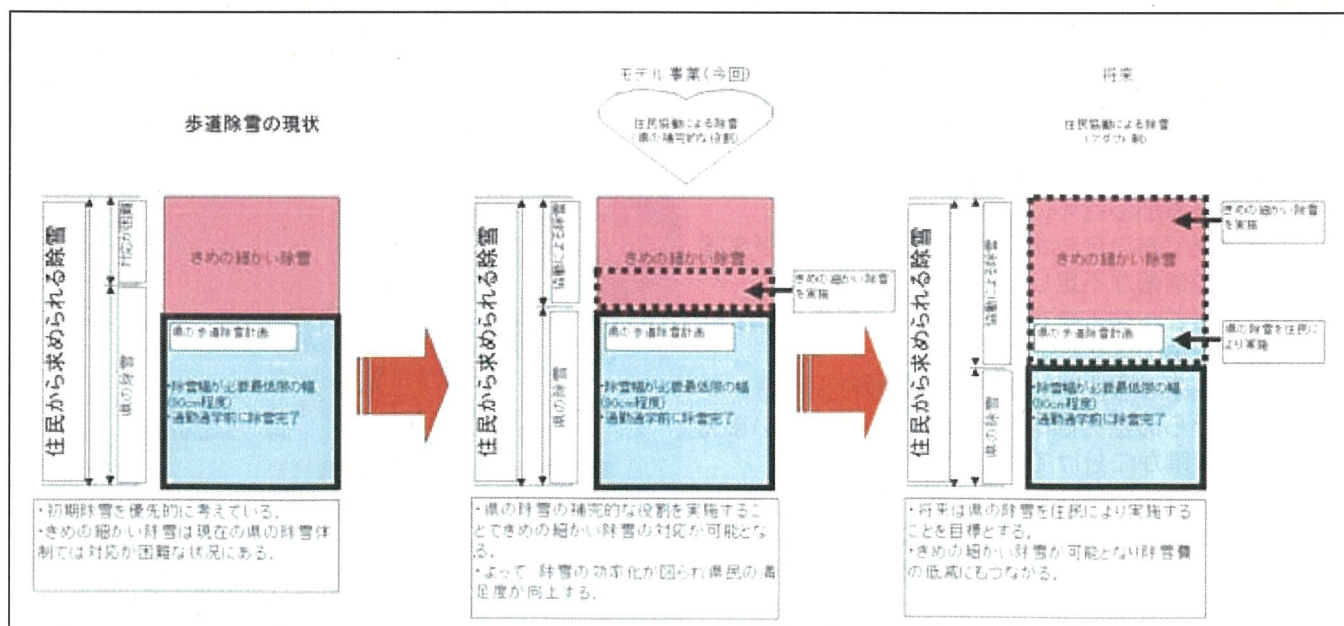
きめ細かい対応が困難な状況にあります。特に、長い区間を担当しているため線的な除雪作業となり、面的な除雪ができない状況にあります。また、県で管理している道路とそれ以外の管理者が管理している道路では、管理レベルに差があります。

県と住民との間で地域における道路の維持管理の情報を共有する機会が少ないため、地域住民が主体性を持ち、地域の道路の維持管理を実施しようとしても作業内容、規模、時期、頻度などについての道路管理者との合意、拘束力がなく、事故に対する補償も確立されていません。

3 ねらい

これからの歩道除雪は、地域の方々が気付くきめ細かな部分まで配慮した歩道除雪を目指し、様々な道路が同じレベルで除雪が完了することが望まれます。

そのため、県と住民とが除雪を含めた道路の維持管理に関してお互いの理解を深め、道路の維持管理の満足度の向上に繋がる仕組みづくりを目指して、住民参加型の歩道除雪を試行することといたしました。



4 歩道除雪の現状と目標

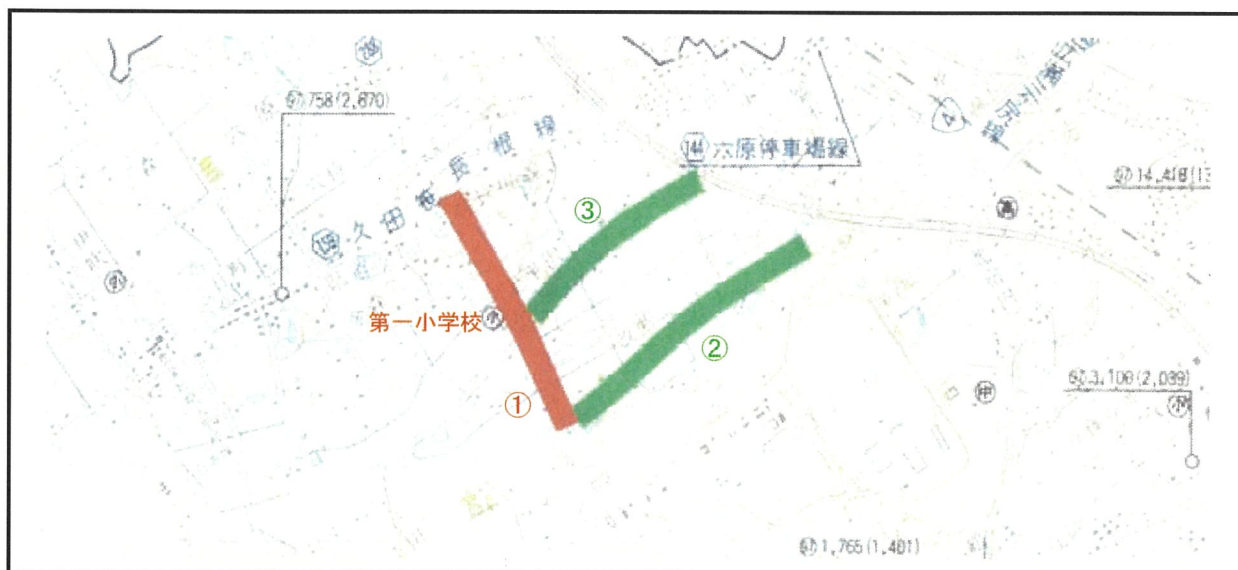
現状



目標(イメージ)

5 住民参加型歩道除雪予定区間

- ①一般県道北上水沢線
- ②町道後田北田尻線
- ③町道大金森長根前線



6 住民参加型歩道除雪スケジュール等

H16年11月1日 住民参加型歩道除雪説明会

H16年11月29日 協定書締結

H16年11月29日 ボランティア保険加入

小型除雪機操作講習会

小型除雪機貸与及び消耗品提供

※貸与している除雪機 ハトガト式 20ps

※消耗品 ・軍手 120組 ・タオル 120本

・軽油用ポリ容器 20リッター 3個

・スコップ 12個

・スノーダンプ 12個

・機械カバー用のブルーシート 1枚

※作業中の事故に備え、参加者全員についてボランティア保険に加入します。ボランティア保険の加入のため一度でも参加が可能なのは参加者として登録していただきます。作業中の万が一の事故についてはこの保険で対応することとしています。

7 最後に・・・

今回の住民参加型の歩道除雪は、県・市町村・地域住民と合意のもとに役割分担を決め、県が業者委託により行っている除雪を補完するためにモデル事業として実施するものです。今回の実施により問題点・課題等を整理し、今後の住民参加型の除雪、さらには道路の維持管理につなげていきたいと思ひます。

【お問合せ先】

〒023-0053

岩手県水沢市大手町 1-2

水沢地方振興局土木部道路河川環境課

TEL : 0197-22-2881 (内 270)、FAX : 0197-51-1405

特集

物流からみた道路の課題を探る！

～岩手県港湾ビジョン・アクションプラン道路現況調査～

1 はじめに

県港湾ビジョンアクションプラン推進協議会では、昨年9月から11月にかけて久慈港、宮古港、釜石港、大船渡港の4港と内陸部を結ぶ貨物輸送ルートにおいて各道路管理者と連携して40フィートコンテナ等の実車による現況調査を実施しました。

県内には、コンテナカーやキャリアカーなどの大型車等の通行が困難な箇所があることから、「岩手県港湾ビジョン・アクションプラン」では、物流関係者による道路環境課題の共有化を図り道路環境の改善に取り組んでいくこととしています。

図1 海と陸との物流ネットワーク



■岩手県港湾ビジョンとは・・・

輸送効率の改善などによって本県沿岸地域のみならず内陸地域の産業の活性化も図るなど、今後概ね20年間の港湾整備と港湾を核とした地域づくりの方向性を示すもので、平成14年9月に策定しました。

■岩手県港湾ビジョン・アクションプランとは・・・

「岩手県港湾ビジョン」を実現するためには、定期航路の誘致や地域活性化拠点の形成など、取り組むべき多くの課題があることから、地域住民、産業界、関係市、県が一体となり組織的に取り組みを前進させていくために、「岩手県港湾ビジョン・アクションプラン」を策定しました。実施期間は当面、16年度から18年度までの3ヵ年となっています。この実施組織として岩手県港湾ビジョン・アクションプラン推進協議会が16年5月に設立されました。この協議会は、県、県内の主な商工会議所、関連市町村、トラック協会などで構成されています。

2 目的と実施手順

(1) 目的

- (ア)関係者による道路環境課題の共有化
- (イ)長距離陸送から県内陸送への円滑な転換

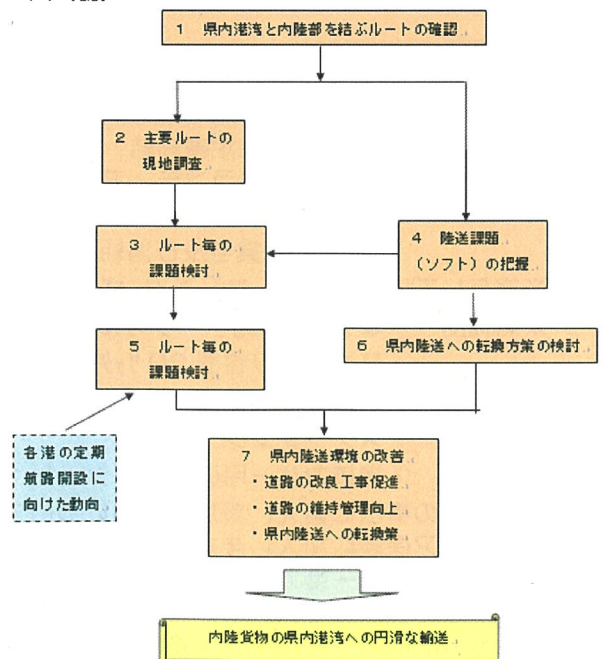
(2) 実施の手順

港湾と内陸間の安全かつ確実な物流を実現するため、ハード面では、関係機関が合同で主要ルートの現地調査を行い、大型車両が走行する上での問題点を抽出し、各港の貨物の集荷状況を勘案しながら、改善箇所の優先順位をつけて、道路環境の改善に取り組めます。

また、港湾と内陸部における集荷場所との間を、より良好な環境で貨物輸送するため、陸送コスト等の課題を把握し、県内陸送への転換方策を検討し、可能なものを導入します。

【実施方法】参加者はバスおよびワゴン車等に分乗し、各港から目的地までの輸送ルートを走行し、40フィートコンテナ車等の実車の前後から走行の様子や道路の現況をチェックする。実車が走行する様子はビデオやカメラに収め、現況や問題点の検証の資料とする。

(3) 実施フロー



特集

～岩手県港湾ビジョン・アクションプラン道路現況調査～

3 調査の実施および結果

(1) 久慈港

- 調査年月日 : 平成16年11月10日
- 主要調査ルート: 国道281号、国道340号、県道戸呂町軽米線
- 主要調査箇所 : 久慈港～軽米町～九戸村～二戸市～九戸村～山形村～久慈港
- 参加団体: 県港湾空港課、道路建設課、道路環境課、久慈・二戸地方振興局、久慈市、久慈商工会議所他
- 想定主要貨物: 発酵鶏糞肥料
- 調査時使用車両: 4tダンプ(県)
- 結果 ①改善要望箇所: 15箇所 ②主な内容: 急カーブ、路面不良、路面凍結、支障木等



国道281号(山形村戸呂町)



国道281号(久慈市鰻淵トンネル)

(2) 宮古港

- 調査年月日 : 平成16年9月10日
- 主要調査ルート: 国道106号、県道宮古港線
- 主要調査箇所 : 宮古港～新里村～川井村～盛岡市
- 参加団体: 県港湾空港課、道路建設課、道路環境課、宮古・盛岡地方振興局、盛岡市、宮古市、新里村、宮古海運(株)ほか
- 想定主要貨物 : コンテナ貨物
- 調査時使用車両: 40フィートコンテナ
- 結果 ①改善要望箇所: 12箇所 ②主な内容: 急カーブ、はみ出し、路面不良、路面凍結、視界不良等



国道106号(新里村墓目)



国道106号(新里村茂市)

(3) 釜石港

- 調査年月日 : 平成16年9月28日
- 主要調査ルート: 国道283号、国道396号、国道4号線、金ヶ崎町道
- 主要調査箇所 : 釜石港～遠野市～宮守村～大迫町～紫波町～盛岡市～金ヶ崎町～花巻市～東和町～宮守村～遠野市～釜石港
- 参加団体: 県港湾空港課、道路建設課、道路環境課、釜石・遠野・花巻・盛岡地方振興局、釜石市、金ヶ崎町、トヨタ輸送(株)、東日本物流(株)ほか
- 想定主要貨物 : 完成自動車
- 調査時使用車両: キャリアカー(4台積み)
- 結果 ①改善要望箇所: 50箇所 ②主な内容: 急カーブ、はみ出し、支障木、路面不良、路面凍結、視界不良等



国道283号(釜石市洞泉)



国道283号(釜石市大橋)

(4) 大船渡港

- 調査年月日 : 平成16年9月7～8日
- 主要調査ルート: 国道397号、国道107号
- 主要調査箇所 : ①大船渡港～住田町～江刺市～水沢市～大船渡港 ②大船渡港～住田町～遠野市～東和町～北上市～東和町～遠野市～大船渡港
- 参加団体: 県港湾空港課、道路建設課、道路環境課、大船・遠野・花巻・水沢・北上地方振興局、大船渡市ほか
- 想定主要貨物 : 印刷紙、タイヤ用スチールコード
- 調査時使用車両: 40フィートコンテナ
- 結果 ①改善要望箇所: 9箇所 ②主な内容: 急カーブ、はみ出し、路面不良、路面凍結、視界不良等



国道397号(住田町下大股)



国道107号(江刺市札押)

4 まとめ

以上の調査により4港で除雪や支障木除去等の管理的事項、道路の拡幅など84箇所の改善箇所を把握することができました。このうち、実施可能なものからもう既に改善しているものもありますが、今後調査結果をもと関係機関と調整を図りながらアクションプランの示す平成18年度を目標に港湾物流ルート環境改善に取り組んでいきます。

新潟県中越地震 災害復旧支援報告

公共土木施設復旧編

昨年 10 月 23 日に発生した新潟中越地震での災害復旧支援のために、県内各自治体職員が 10 月末から派遣されていますが、今回は公共土木施設の復旧支援のために現場で作業してきた職員の「体験記」をご紹介します。

道路復旧支援の様子

一般国道 291 号線



■ 一路派遣先へ

派遣先は、長岡地域振興局地域整備部の小千谷維持管理事務所であり、ここは小千谷市と川口町の 1 市 1 町を管理する機関。

新潟県庁からは、高速道を利用し東京方面へ約 1 時間半を要した。地場産業は、錦鯉と小千谷そば、ちぢみ織りであり、今回の地震で特に錦鯉の棚池が壊滅的な被害を受けていた。

途中、給油のため国道沿いのガソリンスタンドに立寄り、店員より聞いたところ、地震により客の入り込みが増えたとのこと。家屋が倒壊したことにより、車内での生活によるものか。また、車用品店では、カーナビが多数売れているとのこと。

■ 復旧支援の始まり

派遣先の建物は、3 階建ての合同庁舎内にあり、配属先となる小千谷維持管理事務所は 2 階の一室にあった。早々、同所の災害復旧課長へ挨拶し、執務室となる会議室へと案内された。

部屋の広さは、振興局で言うと第 3 会議室位の広さがあり、ここへテーブルで 4 つの島を作り、それぞれの島に 2 自治体の 8 名が配置された。1 人あたりの占有面積は 0.5m×0.6m 程度であり、とても狭い環境での作業となった。

支援業務は、管内の公共土木施設である道路、橋梁、トンネル、河川、砂防、急傾斜の被災状況を調査することにより、復旧費の算出を行い事務所へ報告するものであった。

一般県道 小千谷川口大和線



■ 地獄絵への様相

分担は、管内を 8 自治体に区域割りされ、岩手県は川口町の一部を任された。この町は、地震発生後の停電により震度が不明となっていたが、その後の復旧により震度 7 が記録されていた所。

担当する区域は、道路 8 本、河川 10 本があり、いずれも地震により壊滅的な被害を受けた山古志村と隣接しており、相当の被害が予想された。

早々、現場に行くための準備をし始めたが、事務所から渡された資料は管内図（5 万分の 1）と分担が示された表一枚のみで現場案内はなし。

事務所から、川口町までは約 15 km あったが、信濃川沿いの国道 17 号は応急復旧工事のため大渋滞している。いたる所で道路が決壊、鉄道の盛土が流れ線路は宙吊り状態、やっと約 1 時間かけて川口町役場へ着いたところ、庁舎前の駐車場は、復旧支援の県外車で満杯状態。近くを見わたすと民家や商店は、1 階が押し潰され 2 階だけが残っていた。道路のマンホールは液状化現象により隆起し、アスファルト面には多数の亀裂が発生。

昼時でもあったことから、被災した住民は露天で配給による食事を採っていた。これらを目のあたりにし、まるで地獄絵の様であり持参したカメラの使用をためらった。住民の方と、話してみると行政への不満などは聞かれず、あきらめムードが感じられた。駐車場の一角では、群馬県から来た NPO 法人（女性 2 人）が被災住民の方々にに対し散髪のサービスをしていたのが印象的だった。



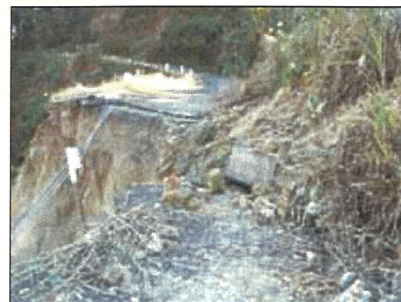
一般県道 茂沢竜光線

路盤中央に幅 25cm 程度で縦断方向に亀裂が発生。50m 付近の側道が、本線との分岐から谷側へ崩落。本線より 30m 先で土砂崩落により通行不能。



一般県道 小千谷川口大和線

大規模な土砂崩落により、路盤などの明かり区間の状況の変化は確認不能。土砂崩落した斜面の頂上付近から水が流れている。



一般県道 小千谷川口大和線

坑口付近の谷側の側道に路盤縦横断方向の多数の亀裂発生。地山・路盤が崩落。ガードレールが傾いている。

■公共土木施設の被害

担当する道路や河川などの調査は、山間の集落まで入り込む必要からパジェロは機動力を発揮した。乗用車ではとても通れない様な道路の段差や亀裂などもスイスイ進み、初めてこの車の有難みを感じた。被災した道路は、路面に亀の子状に亀裂が入った場所やブロック塀の倒壊、大きな地すべりで何処が道路か分からない所。また、橋の下部工に亀裂が入り鉄筋が露出、トンネルの内壁に水平方向の亀裂が入りコンクリート片が落ちている所など、このかた土木の仕事について小職として稀に見る体験であった。

これらの被災状況を持参した図面に記載し、長さと断面を巻尺で測定、黒板を使用しデジカメで撮影する作業を繰り返し続け奥へと進んだ。とりわけ、木沢川の被災調査では途中山間の道路が地すべりにより寸断、河川は天然ダムの様相。危険を冒してまでの調査は困難と判断し、事務所へ連絡（携帯）のうえ作業を断念した。

帰庁後、状況を再度報告し今後の対応を聞いたところ、空からによる被災調査に振替えるとのことであった。

■戦場の様な会議室

日中の被災調査の後、夜間は調査した結果を図化する作業と合わせ復旧工法の検討、復旧費の算出となった。岩手県と同様、各自治体も夕方には受持った区域の被災調査を終え、内業を進めている。これと併行し、測量会社から提出されてくる図面を見ながら自治体と測量会社とのやり取りで、狭い会議室内はさながら戦場と化している。

また、現在の進行状況を派遣元の県へ電話する方や、設計・積算に関し疑問点を討論するグループなどもあり、相当の集中力を持っていないと自分の仕事が進まない職場環境であった。

■3人よれば文殊の知恵

岩手県は、小職の他3名の若手職員が業務をこなした。測量会社からの図面の提出がなされると、若手職員らはまるで仕事を取り合うかの様な積極性で図面に計画線を入れ、復旧費を算出し災害査定設計書の作成を進めている。作業の途中段階では、必要に応じ災害復旧課の職員と相談のうえ指示を仰ぎながら取りまとめていた。

また、計画段階において個人で悩んでいるかと思うと、いつの間にか3人の仲で話しあい、自らまとめていく様子を見て頼もしさを感じた。小職はもっぱら、業務の進行管理や派遣元との連絡、復旧工法に関する国と市町村、JRとの協議に終始した。

■感想と日常業務への反映

中越地震による犠牲者の多くは、建物倒壊や土砂崩れが原因であった。また、道路の寸断により、各地に孤立集落が発生した他ライフラインの復旧に大きな支障をきたした。高速道路や新幹線など高速交通の寸断により、首都圏とも交通途絶が生じたことは、観光産業にも大きな後遺症を残した。

我が家で団らんすることも叶えず、見えない将来への不安、家屋や農地そして職を失った住民に対しての公的な支援が早急に必要なこと。一方では、被災住民の精神的なショックを癒すことの大切さなど、今回の派遣により地震などの有事に対し日頃の備えがいかに大切かと言うことが分かりました。

巷では、この先30年以内に99%の確立で「宮城県沖地震」が発生すると言われていますが、今回の貴重な体験を生かし危機管理の体制づくりに寄与して行きたいと考えています。

宮古地方振興局土木部佐藤秀一

美しい地域づくりを目指して



～第3回 西根町田頭地区～

盛岡地方振興局土木部

私達は共に行動し支援します。

私達は岩手山麓・八幡平周辺重点地域周辺の美しい地域づくりに住民の方々と共に行動し支援しています。

今回は西根町田頭地区の「らしさ」探しと活動状況について紹介します。



神社と狐と地藏さん 地域住民の心のよりどころ



町組から望む岩手山
勇壮な姿が心を洗う

周辺景観と溶け込んだ
昔ながらの道具屋



田頭城址、館山公園老木と岩公園から見る街並



映画「草を刈る娘」昭和28年のロケ地の面影が残る街並



街の中にある弥陀堂親鸞像が見守る



洋風の落ち着いた蔵



交差点から見える貴重な岩手山



蔵を生かした酒屋と銀行、隣の近代建築、阿弥陀堂群との対比が独特の街並を形成している



赤いトタン屋根のふとん屋さん

大木のある沿道筋



垣根の緑が美しい町裏の小路心の安らぎを与える

● 田頭町組地区の歴史

西根町田頭地区の中心に町組があります。

町組の西側に館山と呼ばれる丘陵があり、その頂上にはかつてこの土地を治めていた田頭氏の居城跡があります。東、西、南は急斜面で険しく北は掘割で空堀をめぐらした防御性の高い城で、鹿角街道の要衝であったと伝えられています。

この城址から見る岩手山の雄大な眺め、そしてその裾野に広がる田野を望む光景は絶景であり、昔の城主の気分を少し味わうことができます。現在は公園となっており、四季を通じて町民に親しまれています。

また、この地は古代から明治の初期まで盛岡を発し、田頭、寺田、七時雨、荒屋、田山、鹿角を順路とする鹿角街道の要所として栄えてきた歴史があり、明治初期まで田頭にも駅家が置かれ飛脚や伝馬が配置され、城下盛岡あるいは鹿角地方を往来したとのこと。

昭和28年には、新東宝映画の「草を刈る娘」の映画ロケが行われました。かや葺の屋根を連ねて今なお昔の面影をとどめている田頭（町組）の商店街と岩手山麓に広がる草原地帯がすっかり気に入って即座にロケの適地として内定したそうです。俳優は主役に左幸子、相手役に宇津井健が抜擢され、他に東野英治郎、小沢栄太郎等有名俳優が勢ぞろいし、当時の舞台となった三田村旅館のロケでは、村の助役、中学校長をはじめ約300人の村民が出演し、大変な賑わいだったそうです。



● 田頭“町組”地区の景観づくりの視点

田頭地区には豊かな田園風景や田頭城址としての館山公園、また、田頭竹の子舞や平笠裸参りなどの民族景観も生活に溶け込んだ形で受け継がれています。

恵まれた自然や田園、町並み、集落との調和を図りながら人々の暮らしの息づかいが感じられるようなきめ細かな景観づくりを目指して建築士会西根分会の皆さんが活動しています。

● 建築士会西根分会でまとめた西根町田頭地区の景観形成イメージ（平成13年度）

- (1) 自然・名勝・風物などの保全
河川や農業用水路などの汚染防止
樹木の保存（屋敷林などの景観木）
看板、広告物などの制限

- (2) 植栽や遺跡の復元、町並みの整備などの創造
屋根や壁の色の周囲との調和
屋根形態の周囲との調和
歴史性を感じさせる物の町中への配置
建物周囲の緑化
- (3) 伝えよう伝統文化
田頭城址についての歴史の伝承や館山公園の景観の維持
田頭竹の子舞や平笠裸参りなどの民族景観の伝承

● 景観づくりへの取組み

建築士会西根分会では平成13年度から田頭町組地区の景観形成に取り組んできました。勉強会や現地視察会をふまえて地区の方々にイメージを示し説明をしてきたようですが、一部に反対があったことからその後は研修のみでその他まちづくり活動が停滞していた。平成16年度に入り振興局から新たな視点での取組みを働きかけ再び活動し始めました。

- (1) 「人・自然・ゆとりが織りなす街づくり」研修会（平成16年7月15日開催）

地域景観、街並みから学び調和した美しいまちづくりのための「らしさ探し」の実施及びまちづくり塾開催。（講師：盛岡地方振興局土木部 鍋倉次長）

- (2) 田頭町組地区街づくり研修会（平成16年12月17日開催）

美しい地域づくりのための景観形成への他地区の取組みや田頭町組の取組みについての研修を実施。（講師：盛岡地方振興局土木部 鍋倉次長）



● 景観形成住民協定締結に向けて

建築士会西根分会では早くから田頭町組地区の景観形成住民協定締結に向け活動してきました。

今年度は振興局から「らしさ探し」など視点を変えた支援を行ったことにより機運が高まっています。振興局においても、引き続き地元の皆さんと共に活動していきたいと考えております。



ローカルスタンダードのみちづくり懇談会を開催

12月13日(月)

12月13日(月)に、陸前高田市矢作町三の戸地区でローカルスタンダードに基づく道路整備についての第3回住民懇談会を開催しました。今回は検討委員の外、三の戸地区の住民の方にも出席してもらい道路整備の最終案を検討していただきました。

はじめに、県から前回要望された事項の検討結果を踏まえた計画案を説明しました。

歩行者の安全確保のための歩道設置については、側溝及び路肩のスペースを歩行者が利用できるような舗装等することで対応し、また、2車線での整備については買収用地を極力最小限にし、走行性のよい(右につづく)



道路とするためには現道に沿った1.5車線の改良が一番良いことを比較検討図を示して説明しました。

2車線化の要望については、11月の第2回懇談会以降数回に亘って地域住民や陸前高田市と現地あるいは合庁で意見交換を行ないました。せっかく整備するのであれば2車線だという地元の思いはやはり相当強いものがありましたが、当該路線の位置づけやローカルスタンダードの趣旨を再度説明し1.5車線の改良での整備を納得して頂きました。そのこともあって、今回の懇談会では満場一致で最終的な整備計画案が承認されました。

今後は現地の地形測量に入る予定です。



一般県道遠野住田線 新橋が開通

12月15日(水)

平成16年12月15日(水)、一般県道遠野住田線新橋が開通しました。

新橋は、橋長11.9m、全幅12.0m、車道幅7mで両側に2.5mの歩道が設置されています。

当工区は、遠野市の区画整理事業とも近接しており、遠野市と一体となり進めました。14ヶ月間に渡る工事期間中は、大きな問題も無く今回無事に工事を終えることができました。

開通式は、あいにくの肌寒い曇り空でしたが、沿道には200人以上の大勢の市民が集まり新しい橋の開通を見守る中、地元の保育園園児による鼓隊演奏が行われ華やかな開通式となりました。



久慈地区で工事安全パトロールを実施

12月13日(月)

12月13日(月)、久慈地方振興局発注の公共土木工事を対象に工事安全パトロールを行ないました。

これは、工事の遂行にあたり、労働災害を未然に防止するために工事現場を巡察し、諸設備状況の状況、作業方法、安全衛生、災害防止対策全般について検討し、その工夫改善を図り、工事を円滑に進捗することを目的とするもの。

当日は、二戸労働基準監督署、久慈警察署ほか計24名が参加。点検の結果、多数の意見が挙げられましたが、要改善事項については、直ちに改善し労働災害の未然防止に努め、工事の円滑な実施に努めていきます。



主要地方道栗駒衣川線 天土工区のバイパス供用開始!!

12月22日(水)

主要地方道栗駒衣川線 衣川村天土地内にて整備を進めているバイパス工事が完了し、12月22日(水)に無事開通式を迎えることが出来ました。当日は、晴天の中、地域住民による渡初め式も行われました。

路線名 : 主要地方道栗駒衣川線
位置 : 胆沢郡衣川村天土地内
計画 : L=1,260m W=6.0(11.5)m
1号橋(天河橋) L=126.5m PC3 径間連続コンボ桁橋
2号橋(鳴石橋) L=145.0m 鋼 5 径間連続鉸桁橋



恒例の地域奉仕(清掃)活動を実施!

12月24日(金)

一関市舞川地区で進める冠水対策道路改築事業安全協議会は、14年度に発足し4年目を迎えようとしています。定例の現場安全パトロール・検討会は回を重ね、もうすぐ20回。現場内の不安全状態・行為を戒めあい、改善を繰り返すたびに、互いの安全意識が高揚しお陰さまで、無事故無災害を更新中です。

「今日あるのも、地域住民の温かい理解があって成しえること」との感謝の気持ちを込め、今年最後の清掃活動を実施しました。数年前に環境美化運動で大臣表彰を受けた地域であり、さすが出るゴミは微量。日当たりの好い斜面には、椿・梅は無論、何を間違えてか福寿草やボケの花まで咲いていました。



日詰地区「くらしのみちゾーン」へ向けた住民懇談会を開催

12月10日(金)

12月10日(金)に紫波町日詰地区の「くらしのみちゾーン」に向けた住民懇談会を開催しました。

紫波町の広報や有線放送などにより懇談会の開催を呼びかけ、当日は役場関係職員を含め70人程度が集まりました。

今回の懇談会では振興局土木部より3つの計画案を説明し、また日詰商店会からは1つの計画案が示されました。計画案について少人数のグループをつくり討論してもらい、グループの代表者に発表してもらう形をとったため、多くの方の意見を集めることができました。今回の住民懇談会で話し合われた内容については、地域の方へ新聞を作成し配布する予定です。



フォーラム「地域の景観を考える」開催!

12月23日(木)

12月23日(木)、盛岡市のエスポワールいわてを会場に、フォーラム「地域の景観を考える」を開催しました。午前中の特別講演では、建築家・安藤忠雄さんから、「景観や環境はみんなで守り育てるもの。地域の取組みにより、豊かな景観を作って欲しい」「自分の感性を磨き、自分も景観づくりに関わるとい認識を身につけて欲しい」といった話がありました。

また、午後は大迫町田中小空蔵地区をはじめとする地域の景観点検実践報告が行われ、その後のパネルディスカッションでは、住民の参加を促すことの難しさや美意識の啓発の苦勞、景観教育の必要性等について意見が交わされました。

災害復旧事業に係る 各賞受賞について

◇はじめに◇

昨年は新潟中越地震や台風上陸数が過去最高を記録する等、全国的にも非常に災害が多い年となりました。そんな中、社団法人全国防災協会から他の自治体の模範となる事業やこれまでに災害復旧業務に多大な貢献をされた方に対して送られる名誉ある賞を受賞しましたので、紹介いたします。



【平成 16 年度災害復旧技術発表表彰 最優秀賞】

◇ 平成 11 年災 二級河川雪谷川 災害復旧助成事業

・河川災害復旧等関連緊急事業(岩手県：二戸地方振興局土木部)

発表概要：平成 11 年 10 月 27～28 日にかけての豪雨により氾濫し、軽米町を中心に甚大な被害を及ぼした二級河川雪谷川の災害復旧助成事業(以下、「助成事業」)及び河川災害復旧等関連緊急事業(以下、「復緊事業」)に関するものである。改良復旧事業の計画・実施に際し、「人と自然が共生し、みんなで支え育む雪谷川」をモットーとして住民参画に取り組み、地域住民の意見を反映させた形で自然環境の保全と復元を実践した同事業の概要を発表。



限定された期間内で早期復旧が求められる災害復旧事業において、計画段階から整備懇談会やワークショップ等を密に開催することで地域住民の意見を改良計画に積極的に反映させ、地域と一体となり事業実施に取り組んだこと。また、施工業者への自然環境への配慮を周知徹底し、既存の生態系の保全と復元を果たしたこと等、非常に密度の濃い事業を短期間で実施したことが高く評価された。

【平成 16 年度災害復旧優秀事業表彰：優秀賞】

◇ 平成 10 年災 一般県道西山生保内線道路災害復旧工事(岩手県：盛岡地方振興局土木部) ◇

発表概要：平成 10 年 9 月 3 日に発生した震度 6 弱の内陸北部地震により大規模な長大法面崩壊や転石が生じ、総延長 3.6km に渡って被災した一般県道西山生保内線の道路災害復旧工事に関するものである。復旧を進めるにあたっての国立公園管理者他、複数の関係機関との協議や、一部ルート変更の実施、また現地調査から工事実施に渡っての猛禽類等希少野生動植物への配慮も行いながら早期復旧を図った事業概要を発表。

早期復旧が求められる中で、事業の実施にあたって国立公園や国有林野への配慮を各関係機関を交えた連絡協議会を開催することにより対応したこと。特に絶滅危惧種については現場の施工担当者全員に希少野生動植物について勉強会を開催する等、生態系への配慮を最大限行いながら、大規模な地震災害の早期復旧を行った点が評価された。また国立公園・国有林野内における経済性・安全性・自然環境に配慮したルート選定として他の自治体の模範となる計画であったことから、災害復旧事業の開発や普及に寄与する代表的な事業であると認められ、今回優秀賞の受賞となった。



「土砂災害情報を住民と相互連絡」

土砂災害情報相互通報システム整備事業

■根拠法令 ■目的

砂防法第5条、第13条

土砂災害から人命を守るため、平常時から災害時を通じて土砂災害関連情報を住民と行政機関が相互に通報できるシステムの整備を図っています。いわゆるソフト対策で、土砂災害情報を住民と相互に連絡し、早期に避難できるような環境を整備するものです。

■事業の概要

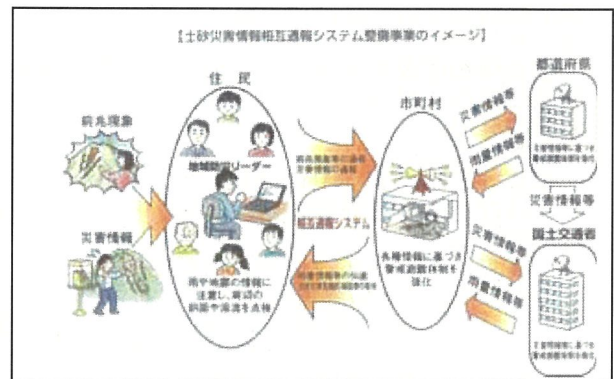
市町村において、都道府県から伝達された雨量情報等を加工し住民へ伝達するための処理装置や、住民からの前兆現象の通報等、住民との情報交換を直接行うための端末等を整備します。【補助率 1／2】

1 整備の必要性

岩手県では、11年度に二戸市、14年度には釜石市で、土砂災害により尊い人命が失われました。しかし、県内の土砂災害危険箇所は14,348箇所（H14公表）もあり、ハード対策による整備には限界があります。一方、「早期避難」のためには行政側が有している情報を住民に提供し、また住民側から前兆現象等の情報を提供してもらう”相互通報”の仕組みづくりが不可欠です。

そこで、行政と住民間で平常時から災害時において情報を伝達することにより、「住民の自主的避難を支援すること」が目的として、住民と行政間の土砂災害情報伝達システムを整備しています。

相互通報システムのイメージ

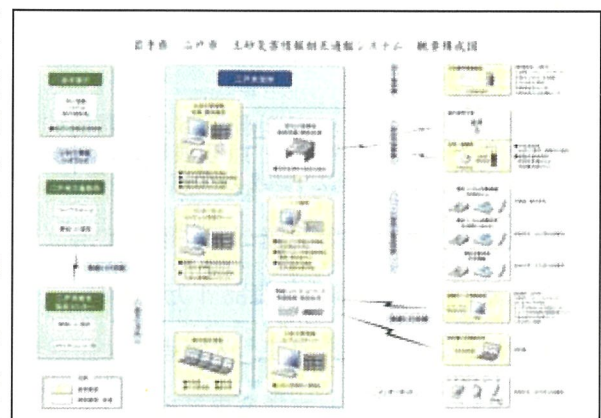


2 事業方針

- 住民に伝達すべき情報は「自主的避難を支援する」という観点から土砂災害危険箇所の所在、種類及び土砂災害に関する情報とリアルタイムの雨量情報などです。
- 事業主体は県ですが、行政と現地の状況を最も的確に把握している住民との相互情報交換を目的とすることから、住民に最も身近な行政機関である市町村が実施主体となります。
- 機器等の帰属は県としますが、維持管理に必要な経費、更新に関する費用は原則として市町村が負担します。（県と市町村で維持管理協定を締結し運用します）
- システム整備は協議の上、事業実施を市町村長に委託します

3 取り組み状況

- 12年度に全県の整備計画を策定する前段として、モデル地区（二戸市）において土砂災害時における住民の避難行動等についてアンケート調査を行い、防災体制の現状と豪雨時の問題点の整理を行いました。その結果をもとに、二戸市で具体的なシステム整備計画を策定し、15年度から機器整備を行い、現在、整備が完了しました。
- また、14年度の台風6号で被害の大きかった釜石市においても「釜石市内土砂災害対策検討会」を設置して今後のソフト対策を検討し、その中のアクションプログラムにおいて迅速な避難支援のための相互通報システム整備を位置付け、現在整備中です。



【担当】：県土整備部砂防災害課

Information

募集等 のお知らせ

1



●花巻空港の愛称&キャッチフレーズを募集しています！

花巻空港（岩手県）は平成 17 年 3 月に滑走路が 2,000m から 2,500m に延長されます。

岩手県空港利用促進協議会では、これを機に花巻空港がより多くの方々にご利用いただける空港となるよう、空港の愛称とキャッチフレーズを募集いたします。

■募集内容

1 愛称部門

岩手県の空港であることを印象づけ、親しみやすい愛称で、「花巻」の名称を織り込んだ、字数 6 字以内（「空港」は含まない）の自作未発表のもの。

2 キャッチフレーズ部門

岩手県の印象やイメージを織り込んだ、岩手の空の玄関口にふさわしいもので、字数 15 字以内の自作未発表のもの。

■募集締切り

平成 17 年 1 月 31 日（月）まで

（はがきは当日消印有効、FAX、E メールは必着）

■応募方法

1 愛称・キャッチフレーズと郵便番号、住所、氏名（ふりがな）及び電話番号を記載のうえ、はがき、FAX または E メールで応募してください。（1 通で愛称とキャッチフレーズ各 1 つの応募が可能です。）

2 作品の趣旨や意図など簡単な説明を記入のこと。

3 愛称の使用文字は漢字、ひらがな、カタカナです。キャッチフレーズは加えて数字（ローマ数字・漢数字）、ローマ字も使用可です。

4 読みがわかるよう「ふりがな」を付けてください。

■応募先

〒020-8570 （住所記載不要）岩手県港湾空港課内
岩手県空港利用促進協議会「花巻空港愛称&キャッチフレーズ募集係」

FAX 019-651-5604

E-mail : AG0010@pref.iwate.jp

■表彰

応募作品については主催者において選考のうえ、最優秀賞各 1 点、優秀賞各 2 点を表彰し、副賞を贈呈します。（同名での応募が複数の場合は抽選とします）

副賞

最優秀賞 花巻空港発着ペア往復航空券（宿泊券付き）

優秀賞 岩手県の特産品 1 万円相当

■発表

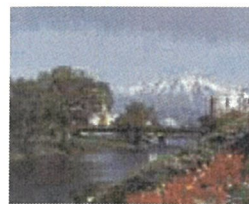
3 月下旬に発表予定です。入賞者には通知します。

■問い合わせ先

岩手県空港利用促進協議会事務局
（TEL019-624-6330）

募集等 のお知らせ

2



●屋外広告物条例の改正（案）について皆さまから御意見を募集します！！

県では、街の美観や自然の風致を維持するため、また、屋外広告物の落下等による危害を防止するため、屋外広告物条例により屋外広告物の表示等について必要な規制を行っています。

平成 16 年に景観法が制定されたこと及び屋外広告物法の一部が改正されたことに伴い、県では屋外広告物条例の一部改正を検討しています。

つきましては、屋外広告物条例の改正（案）について、広く県民の皆さまから御意見を募集します。詳しくは、都市計画課のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0604/okugai/ikenboshu.htm>

■募集締切り

平成 17 年 1 月 26 日（水）まで

■提出方法等

御住所、お名前を明記のうえ、郵送（手紙、はがき）、ファックス又は電子メールでお寄せくださるようお願いいたします（様式は任意）。

なお、お寄せいただいた御意見については、条例制定に当たっての参考とさせていただくほか、次のように取り扱わせていただきますので、御了承願います。

ア プライバシー保護に十分留意したうえで公表させていただくこと

イ 公表を行う際には類似意見を集約させていただくこと

ウ 御意見への個別回答はいたしかねること

■提出先

〒020-8570 盛岡市内丸10番1号

岩手県県土整備部都市計画課

FAX 019-629-9137

E-mail AG0007@pref.iwate.jp

■問い合わせ先

岩手県県土整備部都市計画課

電話 019-629-5887

019-629-5892

みんなの声

1 opinion/idea/proposal/recommendation

各幹線道路において、「もしもしピット」の駐車帯の増設をお願いしたい。ドライバーによっては車道に停車して携帯電話を使用するため、場所によっては交通の妨げになる。

2004/10/10/不明/電子メール

県では、平成 14 年度から県が管理する国道及び県道において、携帯電話の通話が可能な区間で、車が安全に停車できる既存の施設（チェーン着脱場や旧道敷等）に、道路利用者が利用できることをお知らせする目的で「もしもしピット」の標識の設置に取り組んでおり、平成 15 年度までに 4 箇所設置し、平成 16 年度は 8 箇所に設置する予定です。

なお、携帯電話利用施設としての駐車帯の設置については、近年の厳しい財政状況から困難な状況にあり、当面は既存の施設を活用した標識設置に取り組んでいきます。

3 opinion/idea/proposal/recommendation

空港整備について

現在、アメリカ南部で生活しているが、老後は岩手県の三陸地方で過したいと考えている。

ただ、交通が今一つ不便な気がする。空港を建設してはどうか。

2004/10/12/外国/知事ホームページ

広大な面積を有する本県において、高速交通空白域を解消するために、ご提言のありました航空機を活用した交通ネットワークの形成を図ることは、有力な手段の一つであり、沿岸部への空港建設も、その選択肢の一つと考えられます。

しかしながら、国において、今後の空港整備は、羽田空港などの大都市拠点空港の整備を重点的に実施し、地方空港については新設を抑制することや、現在の花巻空港の利用状況などをみると、新たな空港の設置は困難と考えています。

県としては、本県唯一の空の玄関である花巻空港の利便性を高め、広く県民に利用いただけるよう、花巻～釜石間の東北横断自動車道（ハイウェイ）をはじめとする県内各地とのアクセスを強化する道路整備を促進していきます。

2 opinion/idea/proposal/recommendation

不景気で国も県も財源不足のときに、築川ダムや津付ダムを建設する必要があるのか。ダムがなくても今のままで十分ではないのか。ダム建設を中止して、その分を教育や福祉に使ったほうがいい。

将来大切なことをやる場合に財源が不足することになるので、もっと節約してほしい。

2004/10/15/花巻市/電話

洪水等から県民の生命や財産を守るとともに、県土の保全を図ることは、県行政の根幹的な責務と考えています。ダム建設は、その一手法として、河川改修等さまざまな方法のなかで、地域の土地利用状況や自然環境への影響、事業に要する経費等、社会的、経済的な要因を慎重に検討するとともに、地元の意向を踏まえたうえで選択することとしています。

築川ダムと津付ダムについては、このような観点から検討し事業を実施しており、今後とも公共事業評価などの諸手続きを経た上で、厳しい財政状況下ではありますが、コスト削減を図るなど、効果的かつ効率的な事業実施に努めていきます。

4 opinion/idea/proposal/recommendation

浄化槽整備事業、下水道事業及び集落排水事業の予算枠及び新規採択枠の拡大を図るとともに、補助率の引き上げを行うこと。

また、污水处理施設整備の効率的な連携・分担への積極的な取組みを促す観点から、関係省庁の連携施策の一層の推進と連携事業における窓口の一元化を図ること。

2004/10/26/全県/来訪

公共事業費の削減など厳しい環境下にあります。各町村が地域の実情に応じた効率的で経済的な污水处理施設整備が着実に進められるように、国に働きかけていきます。

関係省庁の連携施策の一層の推進については、機会を捉えて国に要望していきます。

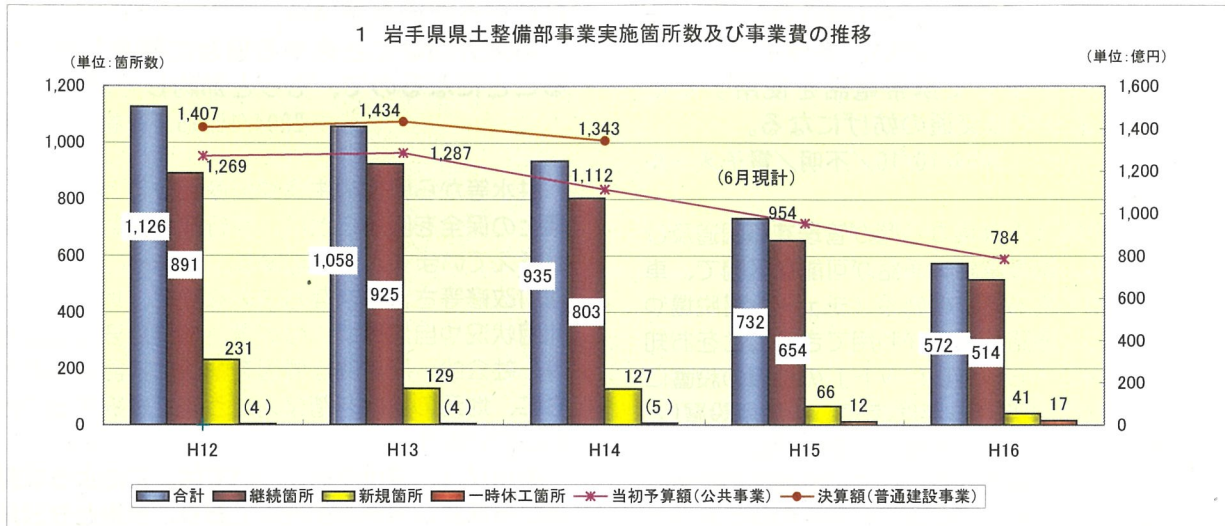
また、県庁の污水处理分野の組織の一元化については、平成 17 年度から行いたく検討を行っているところです。

データウォッチング

本県の社会資本整備の状況等をデータで見るコーナー。今回は、県土整備部の事業実施箇所数と事業費の推移について、みてみましょう。

先月号でも紹介しましたとおり、本県では厳しい財政状況の中、平成 16 年度の公共事業予算は、平成 14 年度比の 30%削減とされたところであります。

このため、限られた予算の範囲で、新規事業箇所の抑制や事業実施箇所を一時休工するなど、更なる「選択」と「集中」により、より効率的な予算の執行を一段と進めています。



・国直轄事業費負担金を含み、災害復旧事業費を除く。
・H14以前の一時休工箇所の()は、用地交渉の難航等により一時休工状態となっている箇所数を表す。

土木建築作品

Vol. 6 小本川水門

県民に親しまれてい
る文化的価値の高い
土木建築作品を紹介
するコーナー

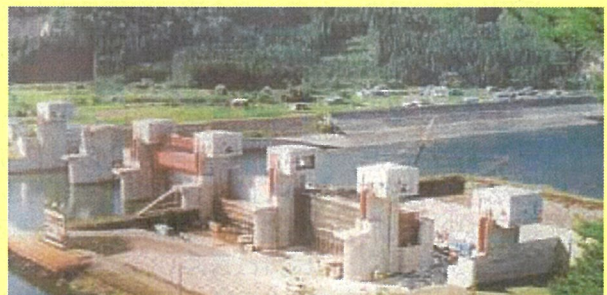
河川・海岸編

【小本川水門】

小本川は三陸高潮対策事業により、昭和 47 年度から防潮堤及び小本川水門の建設に着手しました。計画堤防高を三省協定 T.P.+13.00m 昭和 8 年三陸津波高とし、右岸下流は海岸堤防に接続し、左岸堤防は農水省防潮堤に接続することにより小本川流域の完全防護を図りました。また、小本川計画高水流量 3,000/sec を流下させるため 6 径間の水門が計画され、昭和 52 年度から水門本体工事に着手し、19 年間の歳月と 116 億円の巨費を投じ、防潮堤及びわが国最大級の津波対策としての小本川水門が平成 2 年 11 月に完成しました。

津波から街を防御するために重要な施設であり、岩手県に特有な、沿岸部の防災施設の象徴と言えるかも知れません。県には 794 基 (H15. 3 月末現在) の防潮水門がありますが、その中でも、35m 径間の鋼製水門 6 基からなる小本川水門は大規模なものです。

【資料】水門数：海岸統計 (平成 15 年度版 H15.3 月現在) 662 基 平成 14 年度潮位関連河川水門水門管理委託数 132 基



出所

「いわての土木遺産 100 選」((財) 岩手県土木技術振興協会発行)